

観光振興対策特別委員会会議録

平成30年7月20日

場 所 第5委員会室

平成30年7月20日（金曜日）

午前10時0分開会

会議に付した案件

○意見交換

公益財団法人みやざき観光コンベンション協会

○協議事項

1. 県内調査について
2. 県外調査について
3. 次回委員会について
4. その他

出席委員（11人）

委員	長	黒木正一
副委員	長	西村賢
委員		星原透
委員		井本英雄
委員		松村悟郎
委員		二見康之
委員		日高陽一
委員		太田清海
委員		満行潤一
委員		重松幸次郎
委員		井上紀代子

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

意見交換のため出席した者

公益財団法人みやざき観光コンベンション協会

会長	米良充典
専務理事兼参事	富高敏明
常務理事兼事務局長	橋本江里子

DMO推進プロデューサー
総務企画・ポータル
推進局長
観光推進局長
MICE推進局長
総務企画部長

久重和夫
蛭原真治
岡本充子
杉松彰
松岡省一

事務局職員出席者

政策調査課主査 持永展孝
総務課主幹 木佐貫真一

○黒木委員長 ただいまから観光振興対策特別委員会を開会いたします。

本日の委員会の日程についてであります、お手元に配付の日程（案）をごらんください。

本日は、公益財団法人みやざき観光コンベンション協会との意見交換会を行いたいと思いません。

出席者は、資料1のとおりとなっております。

その後、県内調査、県外調査及び次回委員会などについて御協議いただきたいと思います、このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 それでは、そのように決定いたします。

意見交換先の入室のため、暫時休憩いたします。

午前10時1分休憩

午前10時2分再開

○黒木委員長 委員会を再開いたします。

ただいまから、宮崎県議会観光振興対策特別委員会と公益財団法人みやざき観光コンベンション協会との意見交換会を始めさせていただきます。

初めに、一言御挨拶を申し上げます。

私は、この特別委員会の委員長を務めております東臼杵郡選出の黒木正一と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日は大変お忙しい中、御出席をいただき、まことにありがとうございます。さきの委員会におきまして、観光コンベンション協会様の組織体制、それから取り組み等についてお伺いする機会をつくったらということで意見が出まして、きょうになったわけであります。意見交換会をさせていただきたく存じますので、ひとつよろしく願いいたします。

次に、委員を紹介いたします。

最初に、私の隣が日向市選出の西村賢副委員長です。

皆様から見て左側から、都城市選出の星原透委員です。

延岡市選出の井本英雄委員です。

児湯郡選出の松村悟郎委員です。

都城市選出の二見康之委員です。

宮崎市選出の日高陽一委員です。

続きまして、皆様から見て右側から、延岡市選出の太田清海委員です。

都城市選出の満行潤一委員です。

宮崎市選出の重松幸次郎委員です。

宮崎市選出の井上紀代子委員です。

それでは、早速であります。公益財団法人みやざき観光コンベンション協会様から御挨拶並びに概要説明をお願いしたいと存じます。

○米良会長 会長の米良でございます。本日は大変貴重な時間をいただきましてありがとうございます。

挨拶ということもありましたけれども、手前どもが今悩んでいること、そして、これからどのようにするべきであるかということ等々、過

去、現在、未来といういろいろなものを皆様方にぜひサジェスチョンいただきたい、そういうふうな思いでここに来ております。

コンベンションから県の観光協会というふうには、来年の4月1日から名前を変更させていただくように相なりました。それは、一つはコンベンションという名前そのもの自体が、全国でも残っているところが宮崎県と高知と沖縄というところだったんですけども、どんどんなくなりまして、とうとう宮崎と高知しか残っていないと今思っております。

コンベンションというのは、皆様方も過去の経緯からおわかりのとおり、20年前に、正確に言うと21年ぐらい前に、フェニックスができたときに、MICEとかいろいろな会議等を誘致することで、千人とか二千人とか三千人とかという大きなものを持つてくることによって宮崎の宿泊は当然のこと、お土産でもお金を落としてもらうとか、いろいろな事柄の広範囲的な形の中でコンベンションという名前を冠したというふうに思っております。そういうふうに聞いております。

そのときと時代がこれほどまでに変化いたしております。今はピンポイントと言いますが、個人、ほとんどもう2人か3人というグループであります。我々のころは、1つのグループといえは10人とか15人とか、それが一つの単位だったんですけども、今のグループは、2人とか3人とかというところがいいところございまして、4人というふうになってくると、ちょっと多いかなというふうに旅行の人数の単位もいろいろと変わってきております。

そして、先ほどから申し上げております、この大きな大会というものも全国的にいいますと、全世界的にいいましてもそうなんでしょうけれ

ども、確かにふえているようですが、それがこの日本に選ばれるというのが、ちょっと少なくなってきたかなというふうに思うところもあります。

全体的な統計の流れを見なければなりませんけれども、いろんな意味で、まず宮崎県内の26市町村の首長さんとも、全部ではありませんけれども、複数の方と話をさせていただきました。このごろ、県のコンベンションの面々が、うちの村、町等々に来て、じっくり話をしたことがないというようなお話も聞きました。

それで今、県の観光協会として、コンベンション協会として、何を目的にどのような結果をもってという情報の発信、情報の共有がなかなかできていないというような形も散見できました。

そういうふうな事柄も含めましていろいろと考えた末に、わかりやすい、もとの宮崎県観光協会という名前に戻して、そして26市町村の掘り起こしと、このごろのはやり言葉で言う探検隊というものも含めてやらせていただければなというふうに思っております。

一番の問題は、我々コンベンションの組織そのものをもう一遍固め直すということであり、我々の姿勢をきちんとすることがまず第一義であります。

第二義は、皆様方からこういうふうに、交換会ときは本当にありがたいお言葉をいただいております。こげんしていったらどうか、こうしてみたらどうかと、いろんな苦言をいただきます。全部やれることではありません。その中のやれるものから手順をさせていただきながら、直すべきところは直し、残すべきところは残していこうかなと、そのように内々で話をしていたところに、このようにちょっと意見を聞きたいというような本当にありがたい後光がおりて

きまして、きょうは喜んで参りました。

本当にいろんな形の中で、でき得る限り皆様方と一緒にいろんなことを悩み、結論を出して、そして、今度は皆様方の御指導と力をかりながら実行していきたいと、そういうふうに思っておりますので、ぜひお願いいたします。きょうは、本当に本当にありがとうございます。よろしく申し上げます。

概要説明は、部門ごとにさせていただきたいと思っておりますけれども、とにかく時間がございませんので短くさせていただきます。お願いします。

○黒木委員長 ありがとうございます。

富高専務、お願いします。

○富高専務理事 専務理事をいたしております富高と申します。よろしくをお願いいたします。

それでは、まず最初に、本日出席しております事務局の職員を紹介させていただきます。

常務理事兼事務局長の橋本でございます。

DMO推進プロデューサーの久重でございます。

総務企画・スポーツランド推進局長の蛸原でございます。

観光推進局長の岡本でございます。

MIICE推進局長の杉松でございます。

総務企画部部長の松岡でございます。

それでは、続きまして、協会の組織体制について御説明をさせていただきます。

お手元にお配りしております観光振興対策特別委員会資料の1ページをお開きいただきたいと思います。

当協会には、協会を監督、チェックする機関であります評議員会が設置されておまして、現在、13名の評議員で構成をされております。そしてその下に事業の執行機関であります理事

会があり、現在、24名の理事、2名の監事で構成されております。

名簿につきましては、次の2ページに添付しておりますので、後ほどごらんいただきたいと思います。

そして、理事会の下に事務局が置かれておまして、図の中ほどの左から総務企画・スポーツランド推進局に総務企画部とスポーツランド推進部を、中ほどの観光推進局に国内誘致部と海外誘致部を、右側のMICE推進局にMICE誘致部を設置するとともに、DMO推進プロデューサーを配置し、職員26名の体制で運営をいたしております。

次に、資料の3ページをお開きください。

協会の事業の概要につきまして、平成29年度の事業実績に基づき、主な項目を御説明をいたします。

まず、観光振興でございますが、重点事項の魅力ある観光地域づくりの推進につきまして、宮崎版DMOを推進するため、平成29年度から配置しておりますDMO推進プロデューサーを中心に、全ての市町村を訪問し実態調査を行い、その結果をもとに、地域での周遊ルートの形成と体験・交流型観光体験メニューの充実・商品化を目指してまいりました。

昨年度は、高千穂を中心とした県北地域への支援を行っておりますけれども、その取り組み状況につきましては、後ほど、別途資料で御説明をさせていただきます。

次に、3の旅行商品造成に向けた取組では、(1)の①宮崎の着地型素材を取り込んだ旅行商品造成支援において、3件の支援を行い、②の旅行会社視察等受入においても、3件の視察に対応し、本県の観光状況や観光機会の説明、PRを行ったところであります。

続きまして、資料の4ページをお開きいただきたいと思います。

4の観光地域づくりの推進の(1)の世界農業遺産を活用した誘客促進では、地元町村等と連携して7つの体験プログラムを造成し、2月から3月にテスト販売を行ったところであります。今後、この結果をもとに旅行商品の見直しを行い、販売につなげていきたいと考えております。

(2)の新たなみやざき旅企画商品の造成では、酒造会社、飲食業、市町村と連携して、本県の強みであります焼酎と観光素材を組み合わせた旅行企画商品、本格焼酎と宮崎旅「ノンジョルノ」を造成し、本年度下期からの販売を目指しております。

(3)の「魅力ある観光地域づくりに対する支援」は、平成29年度の新規事業でございます。事業の目的は、地域が主体となって進める観光地域づくりに必要な地域内部の認知度向上や継続的な誘客促進につながる新たな取り組みを支援するもので、ホテル旅館組合青年部と北郷温泉旅館組合の2つの事業を支援いたしております。

次に、5の東九州自動車道を活用した誘客促進につきましては、大分県と連携し、メディアを活用したPRや旅行会社等へのセールスを行ったほか、NEXCO西日本と連携し、東九州自動車道の利用促進と同県への誘客に取り組んでおります。

続きまして、資料5ページをごらんください。

6の教育旅行誘致では、宮崎県教育旅行誘致推進協議会を核として、旅行会社や学校関係者に対して、(1)の担当者の招請、(2)のセールスプロモーションなどに取り組んでおります。

教育旅行の受け入れ状況は、資料の中ほどよ

り下にございます、括弧の参考に記載しておりますけれども、平成26年に宮崎県と川崎市が連携協定を提携したことに伴い、川崎の定時制高校への誘致活動を行ってきました結果、平成29年度に初めての受け入れが実現をしたところでございます。1校46人という記載がございますが、そういうことで実現をしたところでございます。

また、台湾を中心とした国外の教育旅行も増加傾向にありまして、農家民泊や学校交流を目的に本県を訪れていただいているところがございます。

次に、7のインバウンド対策であります。

資料の6ページをお開きいただきたいと存じます。

(1)の東アジア及び東南アジア市場では、資料に記載しておりますとおり、定期航空路線のある韓国、台湾、香港を中心に現地での個別セールス、説明会、商談会への参加、旅行会社等への招請事業を行っているところがございます。

(2)のクルーズ船誘致では、県内外の自治体と連携し、船主や旅行会社に対するセールス、招請事業に取り組んだところであり、寄港実績につきましましては、隣の7ページの一番下のクルーズ船寄港状況にありますとおり、延べ38隻、約8万1,000人の乗客数となっております。

戻りまして、6ページの(3)の欧米豪市場は平成29年度の新規事業でございます。世界各地へ路線ネットワークを持つANAグループと連携し、日本を訪れる外国人旅行者を首都圏や関西地区などから宮崎へ誘客するための旅行商品開発に取り組むもので、平成29年度は日本に在住する欧米の方々を招請し、外国人の視点によるニーズ調査を実施するとともに、さまざま

な課題の抽出を行ったところであります。

(4)のビジット・ジャパン事業への参加では、九州運輸局や九州内の自治体、連盟等と連携し、韓国、台湾、香港のブロガーや旅行会社等を招請し、九州周遊のPRなどに取り組んだところがございます。

続きまして、資料の7ページをごらんいただきたいと思っております。

(5)の個人訪日旅行者向けアンケート調査の実施では、海外旅行の経験のある韓国、台湾、香港、中国の方々を対象に基礎データを収集するためのWEBアンケート、そして実際に宮崎に訪問したことのある方々を対象とした宮崎の観光の認知度、興味関心度、満足度などについてヒアリング調査を行ったところであります。

次に、資料の8ページをお開きいただきたいと思っております。

DMO県北旅行商品化支援の取り組みについて御説明をいたします。

この事業では、ここ数年、各市町村が進めております、いわゆる体験型のメニューの開発の動きを最大限に活用し、これらを具体的な商品として県外に流通させる。そういうことによりまして、宿泊滞在客、観光消費額の増加を図ることを目的として取り組んでいるところがございます。

現在、2の実施事項にありますとおり、県北9市町村が連携した体験交流型観光素材の商品化に取り組んでおりまして、各行政、観光協会に事業の趣旨を説明させていただく中で、9市町村全ての観光協会が連携したプロジェクト体制を組みながら実施をしているところがございます。

3の実施時期はことしの10月から3月、いわゆる下期の期間で、九州域内を対象とした旅行

会社の商品として販売していくこととしておりまして、今後、地元の受け入れ体制等が充実してまいりましたら、全国販売、ネット販売へと順次、販路の拡大を図りたいというふうに考えているところでございます。

4と5の商品内容、商品構成につきましては、県北の約70の体験交流型メニューをあらかじめ旅行会社の商品の旅行代金の中にクーポンという形で織り込んだ個人旅行向け商品というふうに考えております。

6のこの広域連携の実施母体につきましては、事務局を高千穂町観光協会に設置していただき、専任者を1名配置しているところでございます。

隣の9ページに全体のスキーム図を添付しておりますので、後ほどごらんいただきたいというふうに思います。

戻りまして8ページ、この一連の事業に関する7の当協会の役割につきましては、9市町村がそれぞれ単独で取り組んできたことを、当然強みがあるわけですが、それをそれぞれ結びつける、また弱み、それを補完するための調整役かなというふうに思っております。

具体的には、商品化に当たってのノウハウの提供、流通経路に乗せるための旅行会社等との交渉、地元の受け入れ体制の整備、こういったことについて協会として支援をしてまいりたいと考えております。

今後は、この県北の取り組みを成功事例といたしまして、県南、県央、県西へと取り組みの輪を広げていきたいというふうに考えているところでございます。

続きまして、資料の10ページをお開きいただきたいと思っております。

II スポーツランド推進の主なものにつきまして御説明いたします。

昨年度は、新たなスポーツ大会・合宿の誘致を重点事項として、屋内種目の誘致セールスや韓国学生野球の冬季合宿の誘致に取り組んだところでございます。

1のスポーツイベント等開催促進は、経済効果の高いスポーツイベントに対する補助を行うものであり、昨年度は注目度が高く、集客力のある、記載しております9つの大会が支援の対象となっております。

このうち(1)の③「東京六大学野球オールスターゲーム」では、九州で初めて開催されたものであります。

(3)①の日向市で開催された「ISA世界ジュニアサーフィン選手権」では、世界41カ国の選手、スタッフ、約460人が参加し3万8,200人の観客を集めたところでございます。

次に、2のスポーツキャンプ等受入支援の(1)プロスポーツ盛り上げ支援では、野球やJリーグ等のトップチームに県産品の贈呈や歓迎事業を行っております。

下線部分は、本県で初めて合宿・キャンプを行ったチームでありまして、スピードスケート日本代表チームは、昨年5月とオリンピック直前のことし1月に本県で合宿を行っていただいたところでございます。

資料の11ページをお開きいただきたいと思っております。

(2)のアマチュアスポーツ盛り上げ支援では、①の社会人や大学などの13団体に対して県産品の贈呈を行ったほか、②の本県で初めて合宿を行う45の団体に経費の一部助成を行ったところでございます。

次に、3のスポーツキャンプ・合宿誘致対策の(1)誘致セールス等では、都市部の旅行代理店に対しまして、36件の誘致セールスを行い、

本県で受け入れ実績の少ない武道関係を初めとする屋内種目を対象に重点的な誘致活動を行ったところでございます。

（2）の韓国野球エージェント視察受入対応では、宮崎において、施設利用が少ない、いわゆる1月に約1カ月間の長期にわたって合宿を行います、韓国学生野球の誘致を行ってまいりましたがけれども、平成29年度は、前年度より2チーム多い計6チームの合宿が行われたところでございます。

次に、（3）の東京オリパラ等受入対策では、イングランドラグビー協会やドイツ陸上連盟等の海外チームの視察受け入れを行っております。

続きまして、12ページをごらんいただきたいと思っております。

ⅢMICE推進について御説明いたします。

まず、平成29年度の重点事項として、関西地区への誘致セールス、韓国、台湾、香港での商談会、個別セールスを実施したところでございます。

次に、1のMICE推進体制につきましては、MICE関係事業者で構成される推進協議会を設置しまして、総会、講演会等を行っております。

また、この協議会で5名の方をMICEアンバサダーというものに任命させていただきました、学会に関する情報や学会に関する人脈、そういうものを御紹介いただいているところでございます。

（4）のMICE功労者表彰では、次の13ページに記載しておりますとおり、大規模な学会、国際会議の誘致に御尽力いただいた2名の方と1団体を表彰をいたしております。

次に、2のMICE誘致の（1）個別誘致セールスでは、東京、関西、福岡において個別に

セールスを行い、MICEの宮崎開催に関する可能性、そのようなもの等々について情報収集に努めたところでございます。

また、（2）の学術会議等誘致推進懇談会につきましては、東京と福岡で懇談会を開催し、補助金制度の説明や会議情報の収集を行ったところでございます。

（3）の国内外MICE・キーパーソンの招請につきましては、会議の開催地決定に影響のあるキーパーソンを招請し、現地を視察していただいております。

（4）の国際MICE誘致につきましては、韓国、台湾、香港の商談会等に参加するとともに、現地旅行社、旅行会社等への個別セールスを行っております。

3のMICE開催支援につきましては、会議の参加者の延べ宿泊者数に応じて開催支援補助金を交付しておりますけれども、平成29年度の実績は57件となっております。その他の支援としまして、歓迎看板、横断幕等の提供も行っているところでございます。

次の14ページの中ほどには、年別のMICE開催件数を載せておりますが、平成29年度の開催実績は224件、延べ参加者数21万6,321人となっております。そして、その下の一覧表には、平成29年度と平成30年度の主な大型MICEの名称を記載しております。

私からの説明は以上でございます。

○黒木委員長 どうもありがとうございました。それでは、これからは御説明いただいた事項についての質疑、それから本県の観光振興等に関する自由な意見交換を行わせていただきたいというふうに存じます。

委員の皆様からお伺いしたいことがあればお願いいたします。また、みやざき観光コンベン

ション協会様からも忌憚のない御意見をいただきたいと存じますので、よろしく願いいたします。

○星原委員 いろんな説明をいただいてありがとうございます。

私は今、聞きながら考えているんですけれども、こういうことはずっと継続してやってきていることなんですよね。その継続した結果がどういう形で変化してきているか。先ほど米良会長が言われた、団体から個人の関係、世の中が変わってきている中で、10年前はそういう取り組みでよかったけれども、5年前はこういう取り組みになって、これから5年先、10年先はどういう取り組みにしていくのかという、そういう視点で観光も考えるべきじゃないかなというふうに思うんですね。

というのは、私も台湾を例に挙げると、県議会の中に日台友好議連をつくったのは平成9年なんですけれども、その当時は1年、2年に1回ぐらい、ここにありますように旅行社に行ってお願いをしたり、向こうの亜東関係協会だとか、日本の交流協会だとか、そういうところに行って向こうの実態を知ったり、あるいは旅行社には宮崎にぜひ送り込んでほしいという、こういうお願いのやり方をずっと繰り返していたんですよね。

松形知事時代にもチャーターが飛んでいるときには、経済界の人たちが向こうと、そういう会をつくるんですが、人脈というか人と人とかかわりを持つことをどうつくっていくのかなと思っていたんですけれども、なかなかそれが生まれてこなかった。

そういう流れの中で、私の実際の例として話すんですけれども、平成23年から台湾の新竹県の子供たちと野球の交流を始めてみて、そして

向こうの知事や学校関係者、いろんな方々と接する中で、毎年子供たちを連れていくようになってきて、今思うのは、台湾であれ、韓国であれ、香港であれ、人とどうかかわってきているのか、そういうものがどうつながりになってきているのかということじゃないかなというふうに思うんですよ。そういう新竹県の知事との触れ合いや出会いの中で、こっちから飛び込んでいかないと人間関係はできてこないというのがわかったような気がします。桃園市でも台中市でも、自分から入って行って、音楽関係の人それから経済界の人、いろんな人とつき合いやりとりするようになったのと、今スマートフォンというのがあって、これでLINEでいろいろやりとりを毎日のようにやれる。そういう形をつくっていくことが大事じゃないかな。

実は今月25日に、新竹県の人たちと都城で野球の交流をするんですが、野球の子供たちや親など140人、いろいろ来るんです。やっぱりそういうふうに広げていくには、県内のいろんな団体、スポーツ団体や文化団体あるいは経済界など、いろんな人たちが、そういう団体は団体でその国々との人間関係をつくって幅を広げて行って、そういう団体としてのつながりが個々の触れ合いまで行くためにどうするかということをやっぴり捉えていかないと、きょう説明されたようなことはどこの県も同じようにやっていると思うんですね。旅行社に行ってお願い、あるいはホテルに情報を流してこうしてくださいとかというのは、どの県も同じようなことをやっていると思うんですね。もう一步踏み込んで、そういう人と人との関係をいかにつくっていくかということに入っていないと将来はないんじゃないかなと、話を聞きながらそういう気がしました。

最後のほうでありましたように、県北の皆さん方が市町村で連携して、お互いに宮崎力、宮崎の力を全体で発揮して、いろんな国々から、あるいは県外から、連れて来るための方法も考えて、その手だてを一つずつでも積み上げていって取り組まない、観光を語れないし宮崎の将来もないような気がするんです。皆さん方、どう考えていらっしゃるのでしょうか。

○米良会長 仰せのとおりでございまして、皆様方と同意見というところだと思っております。

先生方が申されたとおり、人とのかかわりがどうなっているのか、そしてその情報をどのように収集しているのかということが、今コンベンションのほうではほとんどなされていないように私は思います。

資料の組織図に書いてありましたとおり、どうしても、旅行も国内とか国外とか特に大枠の中でしか組織体がないわけですね。宮崎のコンベンションが、俗に言う、目を外に向けるというのは正しいし、それでいいと僕は思うんですけれども、一番の足下である我々が、例えば高千穂で何をやっているか、都城で、延岡で、日南で、あるいは飫肥で、各地域がどのようになっているのかという事柄がよく把握できていません。ですから、それをどうしたらよいかという事柄をするがために、名称の変更から始まりまして、そのことについては、今専務以下にお願いをしてあります。

同時に、ちょっと話がそれると思いますがけれども、宮崎大学に地域資源創成学部があります。その面々を軸にしまして、全学部で各26市町村の探検隊というのをつくってこないか、とお願いをしています。全部回ろうとしたらちょっと時間的に無理なところもありますので、県北は県北、県南は県南とかエリアを決めて。地域

に行ってみないと、餅一つ、だんご一つでも、宮崎市では食べられないものがある。例えば串間には、その串間の中でも市内ではなく、田舎には失礼でしょうけれど、ちょっと奥のほうに行かないとどうしても食べられないものとかたくさん出てくると思っております。

そういう地域のよさをもっと掘り起こしながら、そしてその地域のよさを、今言われたとおり、かかわり合いによって連れていく、持ってくるという接点の役割をするのが我々の役目だと、そういうふうにも思っております。

ですから、今言われましたとおり、組織の内部をいろいろとしなければならぬだろうというふうにも思っておりますし、それによる効果といますか、言い方を変えると落ちつかせる。つくって動かして、その反応を見ながら、また変更しながらということになってくると、どうしても3年とか4年とか時間がかかります。県の商工観光労働部さん等々との意見交換等を通して御指導賜りながらというふうにも思っております。もう言われるとおりでございまして、その台湾の野球の方が、今度は都城でやられるんですか。（発言する者あり）そういうふうな形の中で、文化や経済の交流を含めて人材の交流をすることが大事ななというふうにも思っております。

もう一つ、経済界において、台湾ではどうしても中華民国三三企業交流会を動かさなければ何もできないというのが、私たちの考え方です。

一方で、一般市民や学校教育の交流となると、なかなかそこまで手が回らないというか情報が疎くなる。そういうところも含めて、お国柄もしくは地域柄によって入り口がちょっと違いますんで、それもあわせて研究しながら組織固

めをしたいというふうに思っております。

○星原委員 私だけ話すのもあれなんですけれども、今言われた組織でもそうなんですよ。海外の商工団体とつながる、農政団体とつながる、というように、縦の社会はつながっているんですが、横のつながりというのがなかなかない。だから我々が聞いたときに、それぞれに聞かないといけない場合がある。そうじゃなくて、海外のことなら国際課で、そこに聞けば、例えば韓国のことは、民間のことも、市町村がやっていることも何でもわかって、台湾のこと、香港のこと、タイのこと、よそのいろんなことがわかるようになっていて、違う角度で行ったときでもそこを訪ねてみようかとか、そこにこういう情報を聞きに行こうかとなるんですけれども、実際どこがどういう動きをしているのかは、その部とか課単位の業務の範疇でしか把握していない。そして、県の立場もそうなんですけれども、ましてや民間の場になると、民間がどこまでどういう形でつながりを持っているのかというのが見えてこないんですね。

だから、今宮崎大学と言われましたけれども、そういうところでもいいんで、そこに聞けば、韓国の経済界でもいろんな木材を扱っている、あるいはいろんな産業機械を扱っていたり、あるいは学校関係だと姉妹校でのいろんな交流とか、あるいは文化、芸術、音楽のいろんな関係、そういう面はどういうふうになっているとかというのを総合的にまとめてもらっているような部署ができると、いろんな活用の方法がいっぱいあると思うんですね。

ですから、そういう文化、芸術いろんなことをやりながら、今度、学校同士の姉妹校づくりをやろうと思って進めているんですけれども、そうなってくると将来10年先、20年先の、世界

は一つというか、グローバル社会の中では、そういう時代が間違いなく入ってくると思うんで、そういう関係を持たせていったり、いろんなことをやっていく中で観光にもつないでいくとか、これからはそういう方向になるんじゃないかな。そういうことにコンベンション協会なり観光協会でもいいんですけれども、そういう動きに対してどうバックアップしていったら、こういう結果、効果が出るとかというものを求めて、どういう支援をしてもらおうとか、いろいろあると思うんですね。そういう生きた支援の仕方、金の使い方というのを考えていただきたいなというふうに思うんです。そういうのについては、今どういう動きになるのか、今後、将来に向けて何か考えていってほしいなと思うんですね。

○米良会長 頑張ります。

○星原委員 逆に行政ができないんで、皆さん方のところに多少いろいろ重荷になっとなるなという部分もあるんじゃないかなというふうに思うんですよ。ですから、今度、逆に、行政の立場じゃなくて民間の立場でいろんなそういうことを掘り起こしていく。そういうことでしかこれからつながりが広がっていかないんじゃないかなという強い思いが、この七、八年間あります。

○米良会長 仰せのとおりでございまして、ちょっと違った答えをさせていただきますけれども、50年前、岩切章太郎さんが宮崎を新婚旅行のメッカにさせていただきました。これは官の力ではありません。全てが民の力でここまでになったと思っております。

この月日がたつにつれて、いつの間にか、また民の力が弱くなったというか、若干、官のほうに頼ってしまっているというような形の中で、民のパワーをどう引き出すかというか、はたまた

た、その人材をどう育成して求めていくのかとか、内閣府が持っていますプラットフォームをどう生かすかとか、いろんな事柄が出てきます。

ですから、言われましたとおり官と民、それから民と民等々の動き方についても、もっと主人公、主体性が我々でなければならぬ。それをもってしてこういうふうな形の中で助成や補助、いろんな考え方とか行動のあり方等々、予算の問題を含めまして、本来ならば、皆様方に相談するというのが我々の本来の仕事ではないのかと、そういうふうに思ったりもしております。

ですので、昔の思い出を語っても仕方がないといえ仕方がないんですけども、この宮崎はやれた時代があったわけです。それをもう一度振り返りながら、温故知新とは言いませんけれども、やらせていただければな、そういうふうに思っております。

大変貴重な意見をいただきまして本当にありがとうございます。

○星原委員 最後にもう一点だけ。佐藤棟良さんという人がいなかったら、宮崎の観光は今あるのかな。ホテルが結構なくなって、外国からあるいは県外から人を呼ぶ施設としては、シーガイアがなかったとしたら、宮崎の観光はどうなっていたのかな。

佐藤棟良さん、ああいう形になってしまいましたけれども、私から見ると、今の宮崎が何とか観光を語れるのは、佐藤棟良さんのおかげじゃないかなというふうに強く思っております。

ですから、やはりあそこの施設をどう生かしていくかを考えながら、もう一步また宮崎のいろんな観光面に力を入れていく、そういう形になるのかなと。もちろん岩切章太郎さんもありましたし、それに続いて佐藤棟良さん。次の時

代は誰がそうやって担っていただけるかわかりませんが、そういう人がやっぱり出てこない、思い切った取り組みとか、思い切った方向性というのは出ないなとそういう強い思いがあります。

それと、宮崎の売り込みとして何を売っていくのか。よく出てくるのは焼酎とお茶とサツマイモ、そんな話なんですよ。宮崎の宝で、来てもらった方に何を紹介する、あるいは持って行って売り込みにするものとして何があるのか。そういうものを、やはりある素材を磨いて、改良して、加工してと、いろんなことをして、そういうふうな部分に転換していく、そういうものもないといけないのかな。

あとはターゲットが若い人たちなのか。男女ひっくりかえって年齢層を見ながら、どういう対応をどの層にしていくのか。そこに入っていくと、いろんなイベントをただやりました、どこどこに行って宮崎の紹介をしましたという、そういう時代はもう忘れないといけないのかなと、そういう思いが今はしております。

○米良会長 そちらの方面では、コンベンションではなく、商工会議所で2018年度地域力活用新事業全国展開プロジェクト（小規模事業者地域活力新事業全国展開支援事業）というのが3カ年にわたって、本年度が500万円、来年在600万円、700万円というふうに予算がおりてきます。

三十数件の中で6件ほど選ばれていますけれども、その中の1件がうちでございまして、これは何かといいますと、宮崎の新事業として神話に基づく神武さま等々の観光の土産品をつくる。例えば鹿児島だったなら、かるかんまんじゅうというのがある。それを各お菓子屋さんが、うちのかんはこうだと、悠々に皆さん方つくっていらっしゃるんですよ。そのかるかん

というものが宮崎にはないわけです。ですから、それを何かをつくらなければならないというところで、今、5人ほどチームをつくらせてやっております。

このコンベンションとの接点といいますのは、商工会議所の中に観光課というのをつくって、コンベンション等々の接点で行き来させていただいておると同時に、コンベンションからいろんなことを習わなければ、会議所としてもやれないというところがたくさんありまして、そういうふうな形の中でやっております。

例えば宮崎では、ばっちょ笠の中に氷を入れてゴルフができるようにする、ばっちょ笠の中に氷を張れば熱中症にならん、というような宮崎ならではのものじゃないといけない。

これで商工会議所とかほかのところ、コンベンションでもいいですけども、こういうお菓子をつくりましたといったら、昔なら全部敵に回しちゃってつぶしにかかれますんで、なかなか思うようにならないというような感じもありまして、そこのところのオールマイティーをどうするかということも含めて、皆様方にまた御相談を申し上げます。

いろんな意味でお金と費用対効果を考えながらのことをごさいますて、あとは時間軸です。

○黒木委員長 いいですか、星原委員。

○星原委員 いいです。

○井本委員 この前、私も監査で、コンベンション協会の事業が、ほとんど丸投げだったもんだから私も頭にきて、もう認定せんというふうになったんだけど、最後は事務局のほうからなだめられて認定することになった。あれはしょうがないね。

きょう出席されている方は、専務理事の富高さんと事務局長は県職員だったというのはわか

るけれども、あとはどんな関係ですか。

○富高専務理事 久重は事業に伴って協会のほうで雇用している職員でございます。

○井本委員 どっから来とるのかね。前歴がわからん。プロデューサーといっても、どこから来たのかなんかもさっぱりわからんから。

○富高専務理事 JTBをおやめになって協会のほうに来ていただいている。今は協会の職員でございます。それと、杉松MICE局長でございますが、市からの派遣でございます。岡本局長は、いわゆるプロパー職員、生え抜きのプロパー職員でございます。蛭原局長、県からの現役出向の職員でございます。松岡部長、これは私と一緒に、県のOB職員ということになります。

○井本委員 あと20何人おるうちのプロパーは何人で、OB職員はどこから来なるわけ。

○富高専務理事 資料の1ページをごらんいただきたいと思います。この一覧表の右上のほうに職員数26名、プロパー5名、以下等々記載しておりますだけの人数でございます。

○井本委員 大体、県で派遣というのと、3年ぐらいおったら、県なんかはやめていくんだわね。

○富高専務理事 通常の異動で交代するという形になろうかと思えます。

○井本委員 ほかの人はどうですか。

○富高専務理事 若干、民間企業の方は長い方もいらっしゃいますが、それでも四、五年ぐらいです。

○井本委員 プロパーの人はずっとなの。

○富高専務理事 このプロパーは職員でございます。

○井本委員 プロパーの方はどっから来られたんですか。

○富高専務理事 もともと最初からです。

○岡本観光推進局長 最初からです。

○井本委員 この前、監査のときもおらんかったもんね。おったんかね。

○岡本観光推進局長 はい。

○井本委員 ああ、そうか。あのときも言ったんだけど、やっぱり寄せ集めで仕事して3年ぐらいたったら戻っていくのは、本気にならんよと。会長が言われるように、組織を本当に何とかしたいと言われるのですよ。しっかりしたもんを、そこに本当に骨を埋めるぐらいの覚悟の人間を集めて、それと理由をつくらんとね。やっぱり最後は人間だと思うんですよ。みんなどこでも同じようなことをやっとするわけよ。そしたら、最後は人間力というか総合力というか、そういうものがやっぱり結局は言われる。

あの岩切章太郎さんみたいな天才的な人間がまた出てくりゃ、それは一番いいんだけど、なかなかああいう人は出てこん。天才的な男だったんだけど、先を読むのがちょっと早過ぎたというか、そんなところがあって失敗したんだけど。しかし、ああいう天才的な人間というのはなかなか出てこんからですよ。やっぱり今度は総合力というかね。

ナポレオンに打ち勝つために、ドイツ参謀本部というのができたんですよ。ナポレオンは行くところ行くところ全部勝つんですよ。ところが、ドイツ参謀本部はみんな連携しちゃって、ナポレオンが来るところは引いて、負けるわけ。負けたふりして引いていくんだね。ナポレオンとしては勝ったつもりになっとるけれども、結局、最終的には負けちよるんですね。要するにそういう天才的な人間がないというなら、やはり総合力ということを持たないというのがないと私は思う。

そういう意味で、JTBさんが来とられるけ

れども、本当に今、宮崎は観光立国じゃないですよ。昔の話ですよ。もし観光とまだ言われるんなら、ほんとの話として真剣にやられるんなら、私はやっぱり組織をもう一回真剣に見直して、みんなやる気のある人間を集めんとだめだ。そういう気がするんですよ。

○米良会長 まさに委員の言われるとおりでございまして、私が去年の6月、7月期から見ていたわけですけども、職員の数が26名、うち5名がプロパーで、残りの面々は、平たく言わせてもらいますと、そのOBの方々が来ていただいて、そして何らかの形で仕事をされてからまた去っていくという形になっております。

そうなってくると、一番大事な人と人とのつながりがなくなってきました。それで、どうしても10年、20年、30年という年月は要るんですよ。26市町村のところにも10年も20年も30年も同じことをやっていらっしゃる方はたくさんいます。昔の人はよかったけれども、このごろの人はおかしいがねって、そういう昔話で結果的に終わって、次の提案ができなくてそのまま帰るとというのが今のパターンです。

ですから、組織のやり直しということよりも、何と言ったほうがいいですかね。要は官公庁さんとコンベンションとの行き来が余りにも多過ぎる。だから、コンベンションそのもの自体が上ばっかり向いて、下を見ないです。ヒラメ以上です。上しか見ないんです。だから、民、百姓のことなんていうのは関係がない。それと今言わせてもらいますとね。委員が言われるとおりに、俺、印鑑押したくねえよ。そのとおりになんです。けれども、これをやってしまわないとですよ。だから、私、26の中に入っていません。27になっておるんです。26対1で今戦っているんです。数には負けます。評判が悪いです。けれ

ども、何としてでも、これはこうやらないと、今から先の宮崎は、今言われたとおり、岩切章太郎さんとか佐藤棟良さんのお名前だけが残っちゃって、また昔話はよかったがねと行ってそれで終わっちゃう。それじゃ、お金の無駄遣いじゃないですか。すごく失礼だけれども、今の商工観光労働部の予算だけやたら多いですよ。どこへ行ったかが私わかんないんですけども、それはこっちに置いて。だから、その中とこのコンベンションとの行き来が、いつもコンベンションとしては、商工観光労働部の観光推進課とかそういうところの課を見ながらいろんなことをするから、どうにもこうにもならないというのが現状です。

きょう、私はめちゃくちゃ来たくて出てきました。腹立てて来ていますんで、ちょっと変なことを言いますけれども、ちょっと全ての事柄はこっちに置いて。

今、皆さん方のお手元にこういうのが入っていると思います。インバウンドの増加による宮崎の経済活性化。6月28日に私、国土交通省を全部回りました。そのときに県の県土整備部に頼んでつくっていただいた資料、実にすばらしいと思っています。開いたところの見開きのところの、開いていただいて左側が空、右側が海。空のほうは11年ぶりに300万の利用者が達成できました、超えました。国に300万というふうにありますと、必ず「ほお」と言います。同時に、海のほうは22万トンのタンカーをこういうふうにさせていただきまして、岸壁の整備と、いろんな意味においてインバウンドがふえております。これは同じものを、きのう、麻生太郎財務大臣に直に持っていきました。そして次ページが、見開きのところが、これ全部が観光であります。高千穂、日南、えびの、それからカー

フェリー等々含めたこういうふうな形になっています。

この中で3ページの下の段の上の左側、サイクリング、このサイクリングが今、日南ではなくて串間まで伸ばそうとしております。宮崎発串間、約80キロぐらい、70キロちょろちょろぐらいあります。ところが、私も72になって、私みたいなおじさんが行きますと、へこたれてどうもならん。帰ってきかならん。

そこで、JRさんと話をしまして、自転車ごとJRさんの中に乗せてもらって、そのまま宮崎に帰ってくるという一つのコースをつくらうと。それに対する補助をお願いをしたいということで、きのう財務省に行って大臣に言いましたならば、それはおもしろいから、やるとは言いませんでした。おもしろいからで終わりましたけれども、これで何とか話つけられるなというところまで来ていると思っております。

次ページの就職の問題です。就職の問題は、平成25年度が0.81、去年が1.44。すさまじい勢いで人の採用がふえております。これは皆さん方には釈迦に説法であります。

一番の問題なのは、6ページの右側が、この地図が距離における地図なんです。これを時間軸における地図をつくり直す必要が僕はあると思っています。それが一つの観光、高千穂から宮崎に来るのに3時間余かかっていたものが、今は1時間40分から50分でこのようになる。そして、延岡まではおりたけれども、そのまま佐伯に上がって、瀬戸内海と、もしくはカーフェリーとか、あっちこっちに行かれる方を何としても宮崎のほうに持ってくる。阿蘇から流れてきた高千穂の面々、せめて1割欲しい。阿蘇に来る方が、これは熊本いわくですけども、4,000万人とか5,000万人というやつですよ。どう考

えてもうそやと僕は思うちよるとですけれども、それはそれでいいやと。1桁違っとしてもいいと思っています。けれども、そのうちのせめて1割、2割に来ていただければ、今の150万人を必ず200万人に、更に200万人を超すという高千穂の誘引はできます。高千穂からおりてくれて、俗に言うシャワー効果をどうにかならんかというふうには思っております。

だから、このような形の中で国土交通省や観光庁等との話し合いを含め、そして、時間軸における地図のあり方もしくはアピールの仕方、情報の流し方を観光協会としても直さなければならぬのかな。そういうふうに思ったりもして、組織固めと同時にいろんなことに手をつけなければならないというふうに、同時進行だというふうに思っております。

そういうふうな形の中で、皆様方にまた御協力をお願いをしなければならぬと、そういうふうに思っておりますのでお願いします。

○**富高専務理事** 事務方から、2点ほど。今、井本委員のほうから去年の監査の件でというお話がございましたが、今、私が先ほど説明した事業のほとんどは、私ども職員が自前でやっている部分でございまして、先方が丸投げしているということではございませんので、そこは十分御認識いただきたいというふうに思います。

それともう一点が、プロパー職員の採用、確かにバランスの問題は若干あるんでしょうけれども、もうちょっと多いほうがいいかなという気もしないでもないのですが、ただ、これはプロパー職員を抱えると、費用の問題等が出てきますので、私どもの一存ではなかなかどうにもならない問題がありますので、ちょっとその辺はまたいろいろ検討をさせていただきたいというふうに思います。

その2点だけちょっとお話しさせていただきます。

○**井本委員** そうやって言うならもう一回聞けけれども、あなたたちの予算の何割かが県からの助成ですか。

○**富高専務理事** 協会予算の7割5分ぐらいは県の補助金でございます。

○**井本委員** そしてそのうちの事業をこの前見たときに、ほとんどはいろんな民間団体に丸投げだったよね。

○**富高専務理事** あれは委託業務という一覧表でございまして、全部が委託になっていましたけれども、それ以外にまだほかに業務がいっぱいございます。

○**井本委員** そのことはわかる。それは26人かかってやったら、それだけになったという話ですか。

○**富高専務理事** ですから、26人の職員がそれぞれにやっている部分、自前で本当にいろんな調整をしながらやっている部分と専門的なもの、例えばいろんなイベントで装飾物をしたいとかそういうものがあって、ちょうど協会ではなかなかできない、専門業者をお願いしないとできないと、そういった部分については、別途委託業務という形で出てくる。そういう御理解をいただければというふうに思います。

○**井本委員** 理解ちゃ理解できるんだけど、それで本当にやったことになつとるのかなと、私はそう思ったんですね。まあ、いいや。いずれにしても、もう一回、会長の言うように組織を一回見直して、そして予算を県からやっぱり7割5分も出とるわけやから、しっかりやってもらいたいと思います。

○**米良会長** 委員が言われたとおりですね。正直申し上げます。彼はどうしてもそういう立場

なもんですから、そういうふうには言わざるを得ないんですけども、委員が言われるとおりに、その場その場の一覧表もしくは数字というものは、それで出てくるだろうと思うけれども、じゃあ、その継続と、なおかつ、特に検証と影響と効果と、それが26市町村どうなっているのかと。県としての見識と、県としてのコンベンションとしての役目はそれで果たしているのか。その場その場のことじゃないのかというような御指摘だと僕は思っております。ですから、それをもっと深掘りをしながら、きちんと整理整頓させていただくのにもちょっと時間がかかりますけれども、何としてでもこれをやらなければ、今の観光コンベンションから観光協会に移っても、名前だけ変わって中身は何も変わらんとという悲しい結果になってしまいます。ですから、それでは本当に県税を使っているわけですからまずいと思いますので、ぜひいろんな意味でお力というか、御指摘をいただきたいと、もっとがんといただきたいというふうに思います。

○井本委員 わかりました。ひとつ米良会長、その情熱をもってよろしくお願いします。ほかにも質問したい方がたくさんおるでしょうから、どうぞ。

○黒木委員長 予定した時間が1時間というのは予定にありましたが、少し延長してもよろしいでしょうか。（発言する者あり）

○米良会長 私は11時20分までで済みません。先生方、シーガイアで東九州道の大会がありませんか。先生方は1時に集合かと思いますが、我々は12時に集合になってますので、11時20分まで頑張ります。

○二見委員 最近、報道やらテレビの話しかしないような気がするんですけども、先ほど宮崎の銘菓、いわゆる鹿児島のかんかんという話

があったと思います。きのう、たまたま、秘密のケンミンSHOWがありまして、あれを見ていたときに、まんじゅう特集ということで福岡そして名古屋、宮崎が出ました。宮崎のまんじゅう何かといたら、チーズまんじゅうだということだったんです。僕もその歴史を一回ちゃんと調べないといけないなと思ったところだったんですけども、どうもこれは菓子工業組合、つくる人たちが二十数年前に全県的にお土産物としてつくろうというようなことで始まったらしいんですね。実際、空港のほうでもチーズまんじゅうって、どーんとうたっているみたいなんですけれども、正直、自分も県民でありながら、これがその宮崎の独特のものなのかと言われていたら、知らなかったんですよ。

だから、ある意味では、宮崎県内何百カ所というところにつくっている土産物らしいので、どこに行ってもこれはあると。なおかつそれぞれのつくっているお店によっても製品あるみたいなんで、ここを宮崎の一つのポイントに絞っていくことはできるのかなと、ちょっと感じたところでした。我々もちょっと勉強しますけれども、また御参考にさせていただければなというふうに思ったところです。

あと、今の国内、国外という大きな枠の中で交流を進めていращやるという話もあったんですが、今星原委員のほうから話があったように、台湾との交流協会というのを、この間、都城で立ち上げました。米良会長はたしか日韓の会長を務めていращやる。

今度、ちょっと縁があってフィンランドの大使館の方と話をしたら、宮崎にはそのフィンランドとの交流協会みたいなものはないということだったんですね。なるほど、国と国の間でのそれぞれの交流協会というのは、あるところとな

いところあるんだなと。もしあるのであれば、そこがやっぱりその国の情報源をいつも持つておくのも一つ重要なのかなというふうに感じたところですよ。韓国、台湾、中国、それぞれいろいろネットワークがあるわけなんですけれども、国ごとによってそういう情報を集約するというシステムがあってもいいのかなというふうを考えているところなんです。そういうそれぞれの交流協会、それと、このコンベンション協会の中の位置づけがあれば非常に連携してやりやすいのかなというふうにも考えています。

企業の方でも取引とかあれば、その国の交流協会に入っているところって多いでしょうし、ロータリーとかライオンズとかそういういろんな団体においても縁があればそういうところとのネットワークがあるでしょうから、国ごとの情報を集約するというやり方が一つあるのかなと思います。もし会長なりいろいろお考えがあれば、お聞かせいただきたいと思います。

○米良会長 チーズまんじゅう、ありました。何となく、そうですね。たしか20年ぐらい、17年前ぐらいですね。あそこで並んで買った覚えがあります。

あと、フィンランド等々との交流、全世界194カ国の窓口は無理です。そこで、せめて20カ国ぐらいの一般的な情報だけは何とか仕入れていただけるようにするには、棚はつくりまます。本箱もつくりまます。でも、人間はといたら、今の段階では多分無理でしょう。

ですから、今言われましたとおり、ちょっと逃げ道をつくっていただきましたから助かったんですけれども、ライオンズとかロータリーとかそういうようなところとか、それから九経連等々にちょっと窓口を開いてみたいというふうに思っております。ですので、済みませんけれ

ども、ちょっとだけそれでお茶を濁すようなことぐらいでまことに申しわけないんですけれども。ちょっと模索します。

○井上委員 私も一つだけ。きょう大変いいお話を聞かせていただいて、それと情熱というか熱が感じられるやりとりが聞けて大変よかったですなというふうに思っています。

どちらかという仕事に関してもそうなんですけれども、やっぱり旅もそうなんですけれども、やっぱりおもしろくないと、行こうという気持ちにはならないし動こうという気持ちにもならないと思うんですね。仕事もそうなので、おもしろがって仕事していただけるような状況になってくると、どんどん人も変わってくるし、人も動いてくるんじゃないかなと思っています。

ことし4月にイタリアに行ったときに、この日本政府観光局のイタリアの所長から、それからスタッフの皆さん全部女性の方でした。私も他県の県議会議員、女性議員ばかりなんですけれども、向こうに行ってお話を聞かせてもらったんですけれども、ヨーロッパはだんだん地方に行きたいという気持ちになっているんだそうです。地方に行きたいと思っているので、地方の情報が欲しい。日本でいえば、日本の地方の情報が欲しい。たまたま私が行っているものですから、宮崎のお話をしたんです。そしてそのときに、向こうのほうで配られているパンフレットを見たら、宮崎県は鶴戸神宮だけでした。鶴戸神宮さんが載っている写真があっただけです。ほかのところは、やっぱり楽しそう、おもしろそう、行ってみたいという思いが出るような写真がいっぱい並べてあったわけですね。

そういう意味でいうと、情報の流し方ですよ。情報の流し方を先ほど会長が何回もおっしゃっていましたが、この情報の流し方をど

うしていくのか。これは国内でも言えることなので、それでたまたまそのときに、宮崎は日本の南のほうで本当に暖かいところだけでもスキーもできるんですよというふうに申し上げたら、その日本人の方ですね、日本政府の観光局だから、目をくりっとして「えー」っていう、宮崎でスキーもできるのという感じになっておられました。だから、情報の流し方をどうしていくのか。情報をまとめて、宮崎も楽しいよ、日本ではこういうことができるよ、と。

先ほど会長が言われた、自転車をJRに乗せるというのは、ヨーロッパへ行ったらどんどん自転車を乗せられるじゃないですか。ペットも一緒に乗っているじゃないですか。だからやっぱりそういうところの概念を変えていくということをやったりチャレンジする必要というのがあるんじゃないかなというふうに思うんですね。もし宮崎市から日南市へ行って串間まで行って、帰りは列車で自転車を乗せて帰られるとしたら、これはとても楽しいなというふうに思いますね。それと時間軸の地図をつくるということも含めて、今本当に、きょう会長から聞いて初めて、私も宮崎の観光まだまだやれるなというふうに実感しました。

この前、うちの商工観光労働部と話し合ったときには、うちはもう観光という話はせんほうがいいっちゃないかなと思ったぐらい、私は正直ありました。スポーツも含めてそうですけれども、やっぱりそこは宮崎へ行くと楽しいぞ、宮崎に行くと違うぞ、と。

例えば、きのう、日南に行ってきたんですが、やっぱりカープの町、日南。やっぱりあそこに行くと、赤が目立って目立って、その中に熱を感じるというかですね、やっぱりそういうものが感じられるものにしていかないと、宮崎まで

行って、「ああよかった、楽しかった」というふうにはなかなかない。次の人にしゃべろうというのが女性の特徴でもあるので、カープのキャンプの大半は女性なので、女性がまた口を開いてしゃべってしゃべってしゃべりまくれるような観光コースというのをつくっていただくといいのかなというふうに思った次第でした。

○米良会長 ありがとうございます。頑張りますとしか言いようがないんですけど、済みません、お願いします。

○黒木委員長 ありましたら、あと1人ぐらい。

○重松委員 よろしいですか、せっかくです。8ページにありますDMO県北旅行商品化支援ということで、これはことしの10月からですよ。商品化の狙いというのが、体験型旅行素材のクーポン化、一定金額をあらかじめ旅行代金に含んでいるということで、しかもそれを今回は県北を中心に企画をされているということですが。少しこの内容について、せっかくです。観光推進局長もしくはプロデューサーの方に御説明をしていただきたいなというふうに思います。

○久重DMO推進プロデューサー では、私のほうから御説明させていただきます。

そもそも私がここに参ったこと自体が、DMOという名前はDMOなんです、まさに宮崎の観光をどう売り出していかで、今の時代に合わせたニーズ、先ほど冒頭で会長からありましたとおり、個人の観光客向けに、いつどなたが来られても、通過型の観光ではなくて、そこで地元の方と触れ合いができる、接点ができる、そして滞在時間が長くなる、そして観光消費額が上がる、さらには連泊をしていただけるというような枠組みをつくっていくために観光地をどうつくっていくのか、その観光地をどういう

ふうに継続的にそれを実施できるような体制をつくっていくのかということをつくるために参ったというような格好でございまして、それを今一番手っ取り早くできる素地が県北にあったということです。

先生方は御存じかと思うんですけれども、例えばえんぱくの取り組みであるとか、あるいはノベスタの取り組み、これは延岡だけなんですけど、それ以外にも諸塚でエコツーリズムの取り組みはもう20年行われています。それから、最近、DMOを申請したこともありますけれども、椎葉でいろんな観光地のツアーの個人型向けの観光商品をたくさん開発している。

要はこの10年ぐらいかけて、既に県北の中でそういうものが芽生え始めていたんですが、残念ながら流通に乗っていない。まさに情報発信が非常に限定的な地域に限られてしまっていて、あるいは、地域づくりのためには非常に役に立っているんですが、それが観光商品として全国に認知されていないというところがありますので、それをお客様がそこへ行ってみたいという旅行の動機づけになるために、そういう見せ方をし商品にしていくということが今回の取り組みの一番の機能でございます。

ですから、一旦、そうはいつでも、まだ受け入れ体制が整っておりませんので、時間をかけてじっくり、まずは九州内のお客様、それからさらには国内のお客様、その次のステップでインバウンドというような形で受け入れ体制をしっかりと作りながら、それから星原委員がおっしゃったとおり、まさに地元のいろんな観光関係だけではなく、いろんな事業主の方々、これまでにない観光と縁のなかった皆様もその輪の中に入れていただいて、どんな形でもいいから他県の方、他国の方と交流ができるようなプロ

グラムをつくっていく。流れを地域でつくっていく。そのときには、地元の観光協会のプロパーの方が中心になって進めていただくというのが、人材づくりの点からいっても一番重要なことだと思っていますので、我々からそこに出向いていって一緒になって進めていくというのを、今回のこの商品化という取り組みを通じて行っているところであります。

○重松委員 ありがとうございます。また個々の御説明を伺いたしたいと思います。

○黒木委員長 まだまだ聞きたいことがあると思うんですけれども、これで終わりたいと思います。よろしいでしょうか。

一言お礼を申し上げます。本日はお忙しい中、御出席をいただき、また貴重な御意見等をいただきまことにありがとうございます。委員の中から厳しい意見がありましたけれども、やっぱり宮崎の観光をどうにかしたいという思いがありますので、一緒に連携しながら宮崎の観光振興のための頑張っていきたいと思います。

最後に、貴協会のますますの御発展、御活躍を祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。

暫時休憩いたします。

午前11時21分休憩

午前11時25分再開

○黒木委員長 それでは、委員会を再開いたします。

次に、協議事項（1）の県内調査についてです。

8月8日、9日に実施予定の県北調査ですが、資料2をごらんください。

前回の委員会におきまして、県北の調査先に

ついて正副委員長に御一任いただきましたので、ごらんのような日程案を作成しました。

まず、8月8日ですが、日向市役所を訪問し、サーフタウンの取組やスポーツキャンプの受入について調査を行います。

次に、延岡市民体育館を訪問し、国体施設予定地に係る現地視察を行います。その後、熊本県阿蘇市に移動して、鳴鳳堂地所株式会社を訪問し、訪日外国人を対象とした滞在型観光の取組について調査を行います。

翌日の9日には、熊本城を訪問し、熊本城における体験型観光及び熊本城の復興状況についての調査を行います。次に、熊本県八代総合庁舎を訪問し、八代港におけるクルーズ船に係る取組及びクルーズ船に係るインバウンド対策を調査し、その後、八代港に移動して現地調査を行います。

調査先との調整もある程度進めさせていただいておりますので、できればこの案で御了承いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 それでは、そのように決定いたします。

なお、諸般の事情により、若干の変更は出てくる場合もあるかもしれませんが、正副委員長に御一任をいただきますようお願いいたします。

また、来週の26日から27日は県南調査が予定されております。参考資料として、確定した行程表を添付しておりますので、よろしく願います。

なお、調査時の服装につきましては、夏季軽装にてお願いをいたします。

次に、協議事項（2）の県外調査についてです。

県外調査につきましては、10月17日から19日

の日程で予定しているところです。次回委員会では、県外調査まで時間が余りないことから、調査先について御協議いただきたいと思います。県外調査の調査先につきまして、御意見がありましたらお願いします。

○井本委員 県外ということは、国外はあるの。（発言する者あり）

○黒木委員長 暫時休憩します。

午前11時27分休憩

午前11時30分再開

○黒木委員長 それでは、委員会を再開いたします。

ただいまの御意見等を参考にしながら、次回の委員会において、県外地視察の行程案をお示ししたいというふうに思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 次に、協議事項（3）の次回委員会についてですけれども、次回委員会につきましては、9月定例会中の9月25日に開催を予定しております。次回委員会での執行部の説明、資料要求について、何か御意見や御要望はありませんでしょうか。

○井本委員 私、DMOのプロデューサーの話、もうちょっと聞きたいな。

○黒木委員長 暫時休憩します。

午前11時31分休憩

午前11時34分再開

○黒木委員長 それでは、委員会を再開いたします。

ただいまの御意見を参考にして、次回委員会の説明、資料等を要求したいというふうに思います。

平成30年7月20日（金曜日）

最後になりますが、協議事項（4）のその他
でございませんでしょうか。その他、委員の皆
さんから何かございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 ないようでしたら、次回の委員
会を9月25日火曜日午前10時からを予定してお
りますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上で本日の委員会を閉会いたし
ます。

午前11時35分閉会